学校番号	208

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「書道Ⅰ」　（光村図書）						
副教材等	無し						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

書写を基盤として様々な書を学ぶ。
・古典の臨書を通して様々な運筆方法を身につける。
・最後まで丁寧に作業し、作品を仕上げること。
・用具・用材の大切さを理解し、時間内にあとかたづけを丁寧に行うこと。

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書道に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書・書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。
(1) 書の表現の方法や形式、多様性などついて幅広く理解するとともに、書写能力の向上図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
(2) 書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理科している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書の良さや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	漢字の書	・楷書及び行書の古典臨書を通じて、古典の書風に即した用筆・運筆、線質、字形を理解する。 「九成宮醴泉銘」 「孔子廟堂碑」 「雁塔聖教序」 「牛橛造像記」 「顧氏家廟碑」 「蘭亭序」 ・楷書及び行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する(創作)	a: 古典の特徴と表現効果との関わり、書体の書風と用筆・運筆との関わりについて、理解している。(知) a:線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりにつちえ理解している。(鑑・知) a:書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために、必要な技術を身に付けている。(技 b:古典の良さや美しさを感受し、意図に基づいて、構成し、古典の特徴や書風に即した、用筆、運筆、字形などを工夫している。 b:創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書の良さや美しさを味わって捉えている。(鑑) c: 漢字の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。 c:書のよさや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(鑑)	作品	プリント	振り返りシート 観察

二学期	仮名の書	・臨書を通じて、古典(平仮名・変体仮名・片仮名)の書風の即した用筆・運筆、線質、字形を理解する。 「蓬莱切」 「高野切第3種」 ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する(創作)	a:古典の特徴と表現効果との関わり、書風と用筆・運筆との関わりについて、理解している。(知) a: 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりにつちえ理解している。(鑑・知) a:書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために、必要な技術を身に付けている。(技 b:古典の良さや美しさを感受し、意図に基づいて、構想し、古典の特徴や書風に即した、用筆、運筆、字形、墨継ぎ、全体の構成などを工夫している。 b: 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書の良さや美しさを味わって捉えている。(鑑) c:仮名の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。 c: :書のよさや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(鑑)	作品	プリント	振り返りシート 観察

三学期	漢字仮名交じりの書	・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・意図に基づき、漢字(楷書・行書)と仮名(平仮名・片仮名)の調和した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する(創作)。	a: 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。(知) a:線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。(鑑・知) a:目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につけている(技) b:漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し、工夫している。 b:創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。(鑑) c:自身の上限の糸意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 c:書のよさや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(鑑)	作品	プリント	振り返りシート 観察